## 5月～6月のりた（告知）

時 開催時間　対 参加対象
所 開催場所　申 参加方法
¥ 参加費　持 持ち物
定 定員(選定方法)

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によって、開催を中止・延期にすることがあります。事前に各問合せ先に確認をお願いします。

▼新着情報は、各センターのホームページをご覧ください。

→https://station.okazaki-lita.com/

### 5/16 日　なごみんミニフェスタ2021

市民と地域団体の交流を図ることを目的とした周年イベント。活動紹介の映像を上映・展示するコーナーや食品、手づくり雑貨などの販売も行います。
※例年よりも規模を縮小して開催します。

時 9:30～12:30
所 なごみん
¥ 無料(一部有料)
申 不要。当日、直接お越しください。

※写真はイメージです(2018年開催時)。

### 5/22 土　東部活躍人！交流会 地域を元気にする「宮崎×サイクリングの挑戦」

地域で活躍する市民活動団体・地域団体などの相互のネットワークづくり促進を目的とした交流会。東部地域にある宮崎地区の取り組みに焦点をあて、地域まちづくりの現状やサイクリストとの連携、今後の展望などの発表を行います。

時 10:00～12:00
所 額田センターこもれびかん 集会室AB（樫山町）
¥ 無料
定 30名(先着順)
申 必要。4/20（火）より受付開始。直接または電話、ファクスにて、むらさきかんへお申し込みください。

NEWS

＼これであなたもりたマニア／

## 活動紹介パンフレットを作成しました

りたは、法人設立から15年を迎えました。これまでの活動の中で、市民活動の拠点である6施設の管理運営業務や乙川リバーフロント地区まちづくり関連の業務さらには、市制100周年記念関連の業務など岡崎市を挙げて取り組む事業などを幅広く手がけてきました。

本誌では、法人設立前から現在（2021年3月）に至るまでの取り組みについてまとめています（全７ページ）。当法人がもつ４つの専門性（①調査・啓発　②計画・活動づくり　③体制づくり　④協働促進）や、それに伴った支援メニューなどもご覧いただけます。

りぶら市民活動センターまたは各地域交流センターにて配架しております。ご希望の方は、窓口のスタッフまでお声掛けください。

**★ホームページでも公開しています！　https://www.okazaki-lita.com/2605**
**正会員・賛助会員としてりたを応援いただける個人・団体の方は本部（0564-23-2888）までご連絡ください。**

| お問合せ | | よりなん | 59－3600 | むらさきかん | 66－3066 | 市民活動センター | 23－3114 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| なごみん | 66－8251 | やはぎかん | 33－3665 | 悠紀の里 | 57－5050 | まち育て推進チーム | 23－2888 |


まちのミカタ
litaracy
2021.05 vol.109

発行・編集
特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた
〒444-0031　愛知県岡崎市梅園町3丁目6-6
TEL(0564)23-2888／FAX(0564)23-2898
http://www.okazaki-lita.com/
https://www.facebook.com/okazaki.lita/

配布
岡崎市図書館交流プラザ・Libra／岡崎市内の地域交流センター
会員宛へ郵送　等　※会員登録をご希望の方は左記までご連絡ください。

配布協力
岡崎市役所各支所／岡崎市各市民センター／シビックセンター／FMおかざき／杉くんの駄菓子屋／angelshare／松應寺／cafeくらがり／



まちのミカタ
# litaracy
ーりたらしいー

109
2021年5月

## 特集1　自分たちに合った広報ツールを探そう！～情報発信のセルフチェック～

市民活動団体にとって「広報」とは、団体を運営するための人材募集、イベントや事業のボランティアや参加者募集など、日々の活動に直結する重要な活動です。市民活動を発展させるには広報を効果的に行う必要がありますが、広報ツールは、情報誌やチラシ、SNSのほか、新たな媒体も登場するなど、多種多様です。

このため「どの広報ツールがいいの？」、「色々な広報ツールの更新が大変」、「効果が感じられない」…と困っている団体の声をよく耳にします。今回、市民活動団体のみなさんが広報活動をセルフチェックしたうえで各種ツールの強みや弱みを理解し、自分達にあったツールを探るための講座を企画しました。

当日は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために、メイン会場とサテライト会場5つをオンラインでつないで開催しました。［実施日：2021年3月13日（土）］

# 特集1 自分たちに合った広報ツールを探そう！ ～情報発信のセルフチェック～

## ●講座開催の経緯

今回の講座は全センター事業（りぶら市民活動センターと5つの岡崎市地域交流センターによる合同企画）として開催。各拠点で活動している市民活動団体や地域団体、過去に広報の相談をされた方などを中心に、各センターのネットワークを活かして広く声掛けを行いました。また、今回は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、1か所に大人数が集まらないよう、6つのセンターをオンラインでつなぐ形式で開催しました。

当初、1月に予定していた本講座は、新型コロナウイルス感染症に係る「緊急事態宣言」の発令を受け、二度の延期を余儀なくされましたが、何とか開催することができ、15名の方に参加いただきました。

## ●講座の内容と成果

講座では、自団体の情報発信を見える化し、必要であれば今後の広報活動を改善していただくために、参加者のみなさんに現状の広報活動の棚卸しをしていただくところからスタートしました。

「ミニ講義」の前半では、様々な広報ツールを活用しながらも手ごたえを充分に感じていなかった団体が、情報発信の対象、目的、頻度を見直したうえで、会員・寄付者の信頼を得るという目的を設定し、新たに「年次報告書」の作成や、活動報告をするスマホ対応HPのリニューアルをすることで効果が得られた事例を紹介しました。後半では、会報誌、チラシ、ホームページ、各種SNS等の広報ツールの想定するユーザーの年代、団体に対するファン度の違いや主な特徴を紹介しました。

様々な広報ツールがある中で、自分たちの団体は「誰に情報を届けたいのか？」をまずは確認することの重要性を共有した上で、特に改善を検討したい広報媒体を（最大）3つ選んで『広報改善ワークシート』を作成いただきました。

参加者からは「広報ツールがこんなに多様にあるということに気づかされた。知らないのではなく知ろうとしなかったことにも気づかされました」「受け身の広報から発信の広報に改善していかなければと思う」「ユーザーや各ツールの特徴を知ることができてよかった」「自分達の情報発信の仕方を確認できチャレンジする事を教えてもらえました」などの声が寄せられました。1回限りの講座では、団体側にとって吸収しきれない部分もあるので、今後も市民活動センター等の窓口による支援を継続していきます。

↑広報改善ワークシートを記入している様子。書き方について、参加者の方から質問があり、マンツーマンでお答えしました。

↑地域交流センター・なごみんでの様子。間隔をあけ、感染症対策を実施したうえで開催しました。

←Microsoft Teamsにて、6センターをオンラインでつなぎ遠隔講座を実現。

### 講座を振り返って・・・

メイン会場の通信状態が悪く、受講者のみなさまには一部ご迷惑をおかけしましたが、日頃、センター職員と団体がコミュニケーションをとれていた関係性や、センタの一職員によるアフターフォローもあり、講座としては無事にやりきることができました。（担当：三矢勝司）

### ▼ 各ツール（SNS）の特徴とよく利用されている年代

| ツール名 | 特　徴 | 使う年代 |
|---|---|---|
| Facebook | 実際につながっている人たちへ、タイムリーな告知と報告を。 | 30~60代 |
| Twitter | 発信のタイミングが大事。リツイート機能での拡散にも期待。 | 10~40代 |
| Instagram | キレイな写真とハッシュタグで、フォロワーを獲得すべし。 | 10~30代 |
| LINE | 情報をピンポイントで届けることができ、その情報を何人が開封したのか解析可能。 | 10~60代 |

# 特集2 「終活スゴロク（仮）」の完成 ～生活支援体制整備事業（第1層）支援業務～

「終活は、自分や家族の安心のために必要」と、多くの人が考えています。それでも、つい先延ばしになりがちになるのは“健康なうちは自らの死や病気を考えづらいこと”や、“医療の選択や財産の整理などのハードな問いに向き合うことが辛い”などの理由が挙げられます。そのため、その心のハードルを下げる“何か”が求められていました。

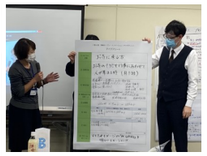
## ●「終活」の入口のハードルを下げたい

岡崎市長寿課（現ふくし相談課）には、地域の高齢者福祉に取り組む地域包括支援センター（包括）や、包括を後方支援する基幹型地域包括支援センター（基幹型包括）から、「終活をやっておけば…」という場面に遭遇する職員の声が集まります。それゆえ同課には“高齢者が情報に触れる機会を増やしたい”、“終活の入口のハードルを下げたい”との強い思いがありました。そんな折、第3回岡崎アイデアソン「高齢社会の住民ニーズとビジネスをマッチング」（2019年）にて「ゲームを作る」という案が出されたのです。これをヒントに、長寿課、基幹型包括、包括による終活WG（ワーキンググループ）が立ちあがり、りたは生活支援体制整備事業（※注）の支援者として参画しました。

↑包括の協力のもと、ごまんぞく体操などに参加される方にお願いして体験会を3回行いました。感染症対策のため、コマは職員が動かすなどの工夫をして試行しました。

## ●現場の声の反映と、気軽な楽しさを重視

終活WGは長寿課との定期会合（年12回、包括ゼミなどを実施）に組み込む形で、2020年4月から年9回開催。まず企画（課題、目的）を作成し、内容（マスの内容、ルール、ストーリー、工夫）を検討。デモ版が完成した9月からは試行しながら改善点を話し合って修正を重ねました。体験者の評判は概ね上々で、ゲーム中に終活に関する会話が生まれることもあり、その”気軽さ”が「終活」へのハードルを確実に下げることを実感できました。



←↑第4回岡崎アイデアソン「すごろくを使って終活を広めたい！関わりたい人募集！」のワークと発表の様子

### ゲームの詳細

**目的：**高齢期の課題を認識するきっかけにすること。

**ストーリー：**60代、70代、80代以上の年代ごとの課題の疑似体験をして、健康長寿に良い行いを学びながら、誰もが幸せに暮らせる「健康長寿国」への入国を目指す話。

**ルール：**スゴロク形式だが勝敗は早上がりではなく「ケンコ」というポイントを多く集めた人の勝ちとなる。

**工夫：**「あるあるお話タイム」のマスを設け、プレーヤー同士のコミュニケーションを図るようにしたことや、ハプニングマスなどを設け、ドラマティックな演出をしたことなど。

**マスの内容：**包括職員へのヒアリングや話し合いから高齢期の課題をピックアップ。約100項目の課題の中から、個人の健康を表す「からだ、こころ、おつきあい」と、社会との繋がりを表す「自助、互助、共助、公助」や「支え合い」を軸に情報を整理し、約40項目がマスに落とし込まれている。

←一人一枚のゲーム盤や各自のサイコロを使うことで、非接触とスペースを保持できる「簡易版」。「筋トレをする」「骨折する」「認知症になる」など、高齢期を疑似体験できるが、A3サイズのため、マスは通常版の半分の約二十項目になっています。

↓現物は岡崎市のホームページからご覧いただけます。
https://www.city.okazaki.lg.jp/houdou/p028750.html

## ●連携とコロナ対応で、新たな展開を

ゲーム盤は11月に完成したものの、コロナ禍であり、その展開や活用方法の検討が必要でした。そのため発案の場への報告も兼ねて、第4回岡崎アイデアソンのテーマに掲げて検討していただきました。参加者である企業や事業者、医療・介護関係者のみなさんによる活用方法のプレゼンでは、企業の既存事業との連携が可能であることがわかりました。そこで、すぐに使用できるように感染症対策バージョンのゲーム盤「簡易版」を作成。今年度は、包括での本格的な活用と並行して、企業との連携で道筋が多方面へ広がることが期待されています。」

### 岡崎市役所・担当者コメント（元長寿課／現ふくし相談課）

昨年の調査では「地域包括支援センターを知っている」のは高齢者55%、若年者37%でした。パンフレットや出前講座では印象に残らないことも、すごろくでは伝わると実感しました。専門職と民間と行政のアイデアが成果につながるよう終活を広めたいです。

※注）生活支援体制整備事業とは、高齢者をはじめとした地域の人の社会参加および生活支援・介護予防を推進すること目的に、市内全域（第1層）及び小学校圏域（第2層）に生活支援コーディネーターの配置や協議体の設置を行う事業。